

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券	
信託期間	2022年6月10日まで（2012年7月12日設定）	
運用方針	アジア・ハイールド債券マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を除くアジアの米ドル建てハイールド債券等に投資を行い、値上がり益の獲得および利子収益の確保をめざします。マザーファンド受益証券の組入比率は高位を維持することを基本とします。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減をはかります。 マザーファンドの債券等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用指図に関する権限を委託します。	
主要運用対象	ベビーフンド	アジア・ハイールド債券マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。
	マザーファンド	日本を除くアジアの米ドル建てハイールド債券等を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーフンド	外貨建資産への実質投資割合に制限を設けません。
	マザーファンド	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。なお、第1計算期末は、収益の分配は行いません。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

# 三菱UFJ アジア・ハイールド 債券ファンド ＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）

愛称：アジアブーケ



第42期（決算日：2016年1月12日）  
 第43期（決算日：2016年2月10日）  
 第44期（決算日：2016年3月10日）  
 第45期（決算日：2016年4月11日）  
 第46期（決算日：2016年5月10日）  
 第47期（決算日：2016年6月10日）



## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「三菱UFJ アジア・ハイールド債券ファンド＜為替ヘッジあり＞（毎月決算型）（愛称：アジアブーケ）」は、去る6月10日に第47期の決算を行いましたので、法令に基づいて第42期～第47期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。  
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目 12 番 1 号  
 URL:<http://www.am.mufg.jp/>

本資料の記載内容に関するお問い合わせ先

お客さま専用フリーダイヤル TEL. 0120-151034  
 (9:00～17:00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)  
 お客さまのお取引内容につきましては、お取り扱いの販売会社にお尋ねください。

# ◆目次

## 三菱UFJ アジア・ハイールド債券ファンド<為替ヘッジあり> (毎月決算型) のご報告

◇最近30期の運用実績	1
◇当作成期中の基準価額と市況等の推移	2
◇運用経過	3
◇今後の運用方針	9
◇1万口当たりの費用明細	10
◇売買及び取引の状況	10
◇利害関係人との取引状況等	11
◇組入資産の明細	11
◇投資信託財産の構成	12
◇資産、負債、元本及び基準価額の状況	12
◇損益の状況	13
◇分配金のお知らせ	14
◇お知らせ	14

## マザーファンドのご報告

◇アジア・ハイールド債券マザーファンド	15
---------------------	----

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近30期の運用実績

決算期	基準価額			(参考指数) B of A メリルリンチ アジアン ダラー ハイイールド コーポレート インデックス (円ヘッジベース)		新株予約権付社債 (転換社債) 組入比率	債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	(分配落)	税金 分配	み 騰 落	期 騰 落	中 騰 落				
	円	円	%	円	%	%	%	%	百万円
18期(2014年1月10日)	10,457	60	0.3	238.58	0.4	7.7	88.8	—	4,353
19期(2014年2月10日)	10,364	60	△0.3	238.49	△0.0	6.7	87.3	—	3,950
20期(2014年3月10日)	10,462	60	1.5	242.42	1.6	5.6	91.8	—	3,676
21期(2014年4月10日)	10,461	60	0.6	244.08	0.7	5.0	90.0	—	3,321
22期(2014年5月12日)	10,371	60	△0.3	243.64	△0.2	5.5	90.3	—	3,046
23期(2014年6月10日)	10,591	60	2.7	249.91	2.6	4.7	89.7	—	2,866
24期(2014年7月10日)	10,691	60	1.5	254.46	1.8	5.0	89.6	—	2,648
25期(2014年8月11日)	10,590	60	△0.4	254.05	△0.2	5.5	91.8	—	2,462
26期(2014年9月10日)	10,722	60	1.8	258.11	1.6	—	96.7	—	2,318
27期(2014年10月10日)	10,421	60	△2.2	254.80	△1.3	—	94.1	—	2,138
28期(2014年11月10日)	10,389	60	0.3	255.71	0.4	—	94.7	—	2,014
29期(2014年12月10日)	10,143	60	△1.8	253.83	△0.7	—	90.7	—	1,796
30期(2015年1月13日)	9,628	60	△4.5	243.35	△4.1	—	90.6	—	1,632
31期(2015年2月10日)	9,722	60	1.6	251.42	3.3	—	95.2	—	1,613
32期(2015年3月10日)	9,932	60	2.8	254.57	1.3	—	93.5	—	1,600
33期(2015年4月10日)	9,834	60	△0.4	257.31	1.1	—	94.8	—	1,489
34期(2015年5月11日)	9,978	60	2.1	259.00	0.7	—	95.4	—	1,411
35期(2015年6月10日)	9,930	60	0.1	259.78	0.3	—	93.0	—	1,345
36期(2015年7月10日)	9,734	60	△1.4	258.53	△0.5	—	90.8	—	1,278
37期(2015年8月10日)	9,767	60	1.0	261.05	1.0	—	95.3	—	1,201
38期(2015年9月10日)	9,451	60	△2.6	254.46	△2.5	—	91.9	—	1,132
39期(2015年10月13日)	9,535	60	1.5	257.91	1.4	—	93.5	—	1,072
40期(2015年11月10日)	9,675	60	2.1	264.07	2.4	—	94.6	—	1,066
41期(2015年12月10日)	9,450	60	△1.7	261.21	△1.1	—	93.0	—	1,008
42期(2016年1月12日)	9,248	60	△1.5	260.34	△0.3	—	89.9	—	951
43期(2016年2月10日)	8,969	60	△2.4	257.59	△1.1	—	89.5	—	898
44期(2016年3月10日)	9,085	60	2.0	262.56	1.9	—	94.0	—	902
45期(2016年4月11日)	9,261	60	2.6	270.74	3.1	—	88.5	—	865
46期(2016年5月10日)	9,403	60	2.2	274.45	1.4	—	91.5	—	873
47期(2016年6月10日)	9,491	60	1.6	280.21	2.1	—	90.5	—	862

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 参考指数は、B of A メリルリンチ アジアン ダラー ハイイールド コーポレート インデックス (円ヘッジベース) です。

B of A メリルリンチ アジアン ダラー ハイイールド コーポレート インデックスとは、B of A メリルリンチ社が算出するアジアのハイイールド債券の値動きを表す指数です。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「新株予約権付社債(転換社債)組入比率」、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率-売建比率。

## ○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基準 価 額		( 参 考 指 数 ) B o f A メリルリンチ アジアン グラダー ハイールド コーポレート インデックス (円ヘッジベース)		新株子約権付社債 (転換社債) 組入比率	債 券 組入比率	債 券 先物比率
		騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率			
第42期	(期首) 2015年12月10日	円 9,450	% —	261.21	% —	% —	% 93.0	% —
	12月末	9,301	△1.6	259.72	△0.6	—	91.0	—
	(期末) 2016年1月12日	9,308	△1.5	260.34	△0.3	—	89.9	—
第43期	(期首) 2016年1月12日	9,248	—	260.34	—	—	89.9	—
	1月末	8,992	△2.8	255.44	△1.9	—	93.2	—
	(期末) 2016年2月10日	9,029	△2.4	257.59	△1.1	—	89.5	—
第44期	(期首) 2016年2月10日	8,969	—	257.59	—	—	89.5	—
	2月末	8,995	0.3	259.09	0.6	—	93.6	—
	(期末) 2016年3月10日	9,145	2.0	262.56	1.9	—	94.0	—
第45期	(期首) 2016年3月10日	9,085	—	262.56	—	—	94.0	—
	3月末	9,210	1.4	267.39	1.8	—	90.5	—
	(期末) 2016年4月11日	9,321	2.6	270.74	3.1	—	88.5	—
第46期	(期首) 2016年4月11日	9,261	—	270.74	—	—	88.5	—
	4月末	9,426	1.8	273.71	1.1	—	91.7	—
	(期末) 2016年5月10日	9,463	2.2	274.45	1.4	—	91.5	—
第47期	(期首) 2016年5月10日	9,403	—	274.45	—	—	91.5	—
	5月末	9,493	1.0	278.05	1.3	—	94.9	—
	(期末) 2016年6月10日	9,551	1.6	280.21	2.1	—	90.5	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「新株子約権付社債(転換社債)組入比率」、「債券組入比率」、「債券先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

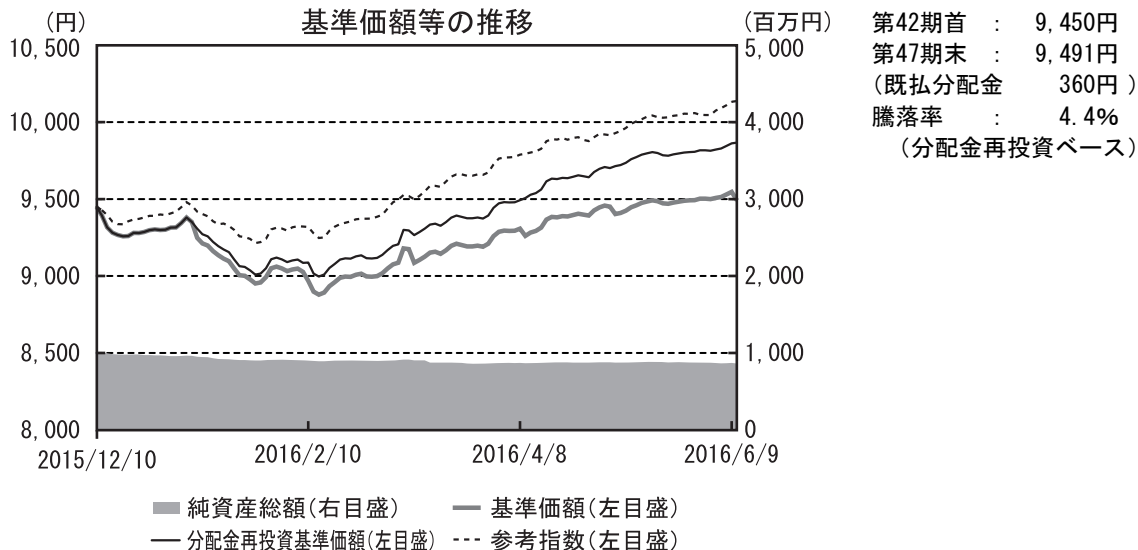
## 運用経過

当作成期中の基準価額等の推移について

(第42期～第47期：2015/12/11～2016/6/10)

基準価額の動き

基準価額は当作成期首に比べ4.4%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



- ・ 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ・ 実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるため、お客さまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

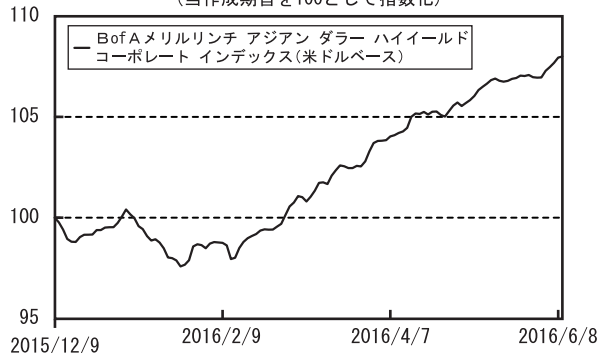
上昇要因

保有していた不動産関連銘柄が概ね上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。

## 投資環境について

## 債券市況の推移

(当作成期首を100として指数化)



(注) 現地日付ベースで記載しております。

(第42期～第47期：2015/12/11～2016/6/10)

## ◎債券市況

- ・ 当作成期首から2016年2月中旬にかけては、中国経済に対する不透明感が高まったこと、商品市況が下落したことなどを背景にリスク回避の動きが強まり、アジア・ハイイールド債券の спреッド (国債金利に対する上乘せ金利) が拡大し、アジア・ハイイールド債券市況は下落 (利回りは上昇) しました。
- ・ 2月中旬から当作成期末にかけては、米国の利上げペースが緩やかなペースになるとの見方が広がったこと、商品市況が上昇したことなどを背景にリスク回避の動きが後退し、アジア・ハイイールド債券の спреッド が縮小し、アジア・ハイイールド債券市況は上昇しました。
- ・ 当作成期を通じてみると、アジア・ハイイールド債券市況は上昇しました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

<三菱UFJ アジア・ハイイールド債券ファンド<為替ヘッジあり> (毎月決算型) >

- ・当ファンドはアジア・ハイイールド債券マザーファンド受益証券（以下、マザーファンド）への投資を通じて、日本を除くアジアの米ドル建てハイイールド債券等を高位に組み入れるとともに、為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図る運用を行いました。為替市況が、当作成期首に比べ、円高・米ドル安となりましたが、高水準の為替ヘッジを行っていたため、為替市況の変動が基準価額に与える影響は限定的となりました。

<アジア・ハイイールド債券マザーファンド>

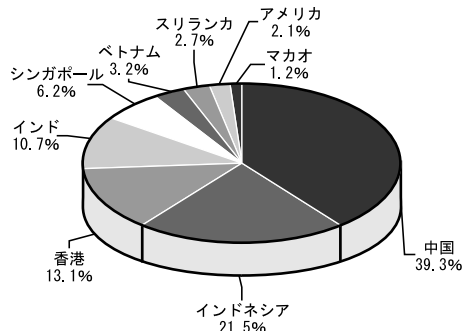
基準価額は当作成期首に比べ6.4%の下落となりました。

- ・国別では、ファンダメンタルズと比べて割安感があると考える中国の組入比率を高めとした一方、利回りの観点から魅力度の劣るフィリピンや韓国は非保有としました。格付配分では、B格相当の銘柄への投資を多めとしました。セクター別では、不動産関連セクターなどの組入比率を高め維持するとともに、アジア新興国の消費市場拡大による恩恵が期待できる小売関連セクターなどへの配分を市場平均対比多めとする一方、利回り水準が低く金利感応度の高い公益セクターなどへの配分を市場平均対比少なめとしました。
- ・前記の運用を行った結果、保有していた不動産関連銘柄が概ね上昇したことなどが基準価額にプラスに寄与したものの、円高・米ドル安が進行したことなどがマイナスに影響し、基準価額は下落しました。

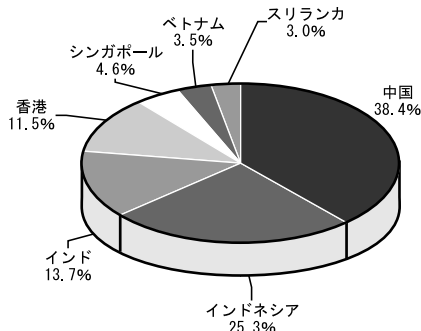
(ご参考)

国別構成比

作成期首 (2015年12月10日)



作成期末 (2016年6月10日)



(注) 比率は現物債券評価額に対する割合です。

(注) 国名は、BloombergのCountry of Riskの分類を採用しています。

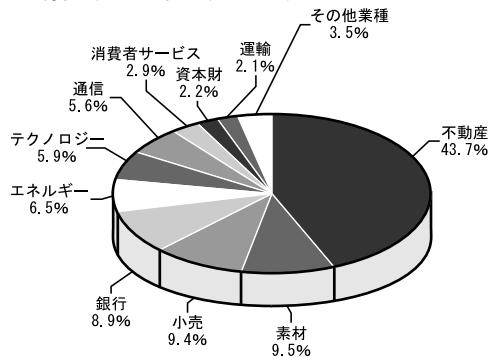
(注) 比率は現物債券評価額に対する割合です。

(注) 国名は、BloombergのCountry of Riskの分類を採用しています。

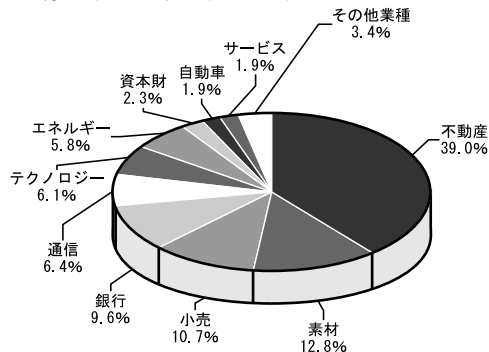
(ご参考)

業種別構成比

作成期首 (2015年12月10日)



作成期末 (2016年6月10日)



(注) 比率は現物債券評価額に対する割合です。

(注) 業種はBofAメリルリンチの業種区分に基づいておりましたが、一部モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクの判断に基づき分類したものが含まれます。

(注) その他は、米国債等です。

(注) 比率は現物債券評価額に対する割合です。

(注) 業種はBofAメリルリンチの業種区分に基づいておりましたが、一部モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクの判断に基づき分類したものが含まれます。

(注) その他は、米国債等です。



(ご参考)

利回り・デュレーション(平均回収期間や金利感応度)

作成期首(2015年12月10日)

最終利回り	9.3%
直接利回り	8.0%
デュレーション	2.6年

- ・数値は債券現物部分で計算しております(先物は考慮していません)。
- ・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

作成期末(2016年6月10日)

最終利回り	6.8%
直接利回り	7.3%
デュレーション	2.0年

- ・数値は債券現物部分で計算しております(先物は考慮していません)。
- ・最終利回りとは、個別債券等について満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。
- ・直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。
- ・利回りは、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損益等を考慮した後のファンドの「期待利回り」を示すものではありません。
- ・デュレーションは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ金利の変化に対する債券価格の変動率を示します。

(ご参考)

債券の格付分布

作成期首(2015年12月10日)

格付種類	比率	銘柄数
AAA格	0.0%	0
AA格	0.0%	0
A格	0.0%	0
BBB格	1.5%	1
BB格	28.8%	14
B格	60.4%	27
CCC格以下	4.7%	2

- ・比率は純資産総額に対する割合です。
- ・格付の振分基準は以下の通りです。
- ・AAA格(AAA、Aaa)
- ・AA格(AA+、AA、AA-、Aa1、Aa2、Aa3)
- ・A格(A+、A、A-、A1、A2、A3)
- ・BBB格(BBB+、BBB、BBB-、Baa1、Baa2、Baa3)
- ・BB格(BB+、BB、BB-、Ba1、Ba2、Ba3)
- ・B格(B+、B、B-、B1、B2、B3)
- ・CCC格(CCC+、CCC、CCC-、Caa1、Caa2、Caa3)
- ・原則として、個別銘柄格付を採用しておりますが、例外的に国債、地方債ならびに政府保証のある債券などについては、弊社の分類基準に基づいて、ソブリン格付(国の発行体格付)を採用しているものがあります。
- ・格付の表示にあたっては、S&P社、Moody's社、フィッチ・レーティングス社の3社のうち最も低い格付を表示しています。
- ・上記3社の格付を取得していない場合は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクによる独自の格付を採用しています。

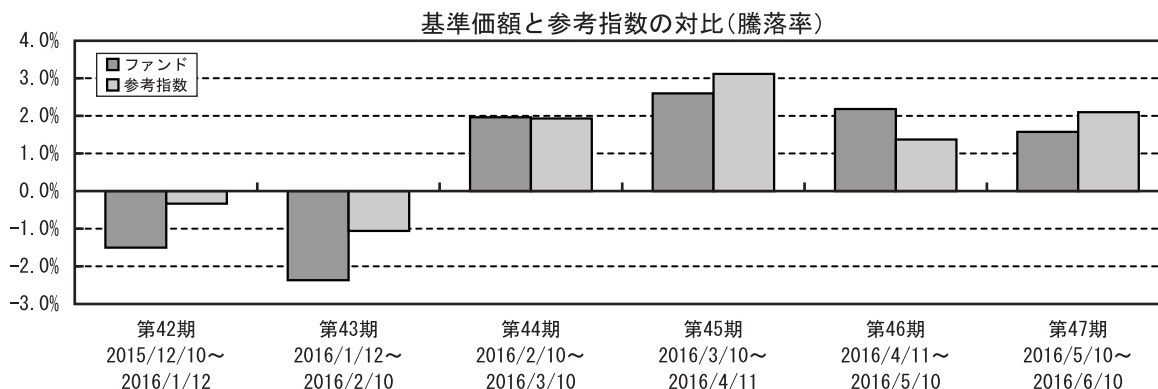
作成期末(2016年6月10日)

格付種類	比率	銘柄数
AAA格	0.0%	0
AA格	0.0%	0
A格	0.0%	0
BBB格	1.6%	1
BB格	35.0%	17
B格	52.5%	24
CCC格以下	6.0%	2

- ・比率は純資産総額に対する割合です。
- ・格付の振分基準は以下の通りです。
- ・AAA格(AAA、Aaa)
- ・AA格(AA+、AA、AA-、Aa1、Aa2、Aa3)
- ・A格(A+、A、A-、A1、A2、A3)
- ・BBB格(BBB+、BBB、BBB-、Baa1、Baa2、Baa3)
- ・BB格(BB+、BB、BB-、Ba1、Ba2、Ba3)
- ・B格(B+、B、B-、B1、B2、B3)
- ・CCC格(CCC+、CCC、CCC-、Caa1、Caa2、Caa3)
- ・原則として、個別銘柄格付を採用しておりますが、例外的に国債、地方債ならびに政府保証のある債券などについては、弊社の分類基準に基づいて、ソブリン格付(国の発行体格付)を採用しているものがあります。
- ・格付の表示にあたっては、S&P社、Moody's社、フィッチ・レーティングス社の3社のうち最も低い格付を表示しています。
- ・上記3社の格付を取得していない場合は、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクによる独自の格付を採用しています。

## 当該投資信託のベンチマークとの差異について

(第42期～第47期：2015/12/11～2016/6/10)



・ファンドの騰落率は分配金込みで計算しています。

- ・当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。上記のグラフは当ファンド(ベビーファンド)の基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ・参考指数はBof Aメリルリンチ アジアン ドラール ハイイールド コーポレート インデックス(円ヘッジベース)です。

## 分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益(留保益)につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

## 【分配原資の内訳】

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
	2015年12月11日～ 2016年1月12日	2016年1月13日～ 2016年2月10日	2016年2月11日～ 2016年3月10日	2016年3月11日～ 2016年4月11日	2016年4月12日～ 2016年5月10日	2016年5月11日～ 2016年6月10日
当期分配金 (対基準価額比率)	60 0.645%	60 0.665%	60 0.656%	60 0.644%	60 0.634%	60 0.628%
当期の収益	51	43	53	58	52	53
当期の収益以外	8	16	6	1	7	6
翌期繰越分配対象額	1,069	1,053	1,047	1,046	1,038	1,031

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

<三菱UFJ アジア・ハイールド債券ファンド<為替ヘッジあり> (毎月決算型) >

### ◎今後の運用方針

- ・マザーファンドへの投資を通じて、日本を除くアジアの米ドル建てハイールド債券等を高位に組み入れ、利子収入の確保および値上がり益の獲得をめざすほか、為替ヘッジを行い為替変動リスクの低減を図る運用を行います。

<アジア・ハイールド債券マザーファンド>

### ◎運用環境の見通し

- ・米国では世界経済の動向を確認しながら緩やかなペースで追加利上げが実施される可能性が高いと予想していること、日本やユーロ圏などの他の先進国では緩和的な金融政策が維持されると見ていることなどから、アジア・ハイールド債券市場には相対的に高い利回りを求める投資家からの資金流入が期待できると見えています。
- ・アジア各国では、原油価格が中長期的な観点から見て低水準で推移していることなどを背景にインフレ懸念が後退していることから、景気が減速しても緩和的な金融政策による景気下支えが期待できると考えます。また、中長期的には中間層および富裕層の拡大などを通じて相対的に高い経済成長を継続できると考えます。中国では、経済成長ペースがやや鈍化すると想定されるものの、政府が景気刺激策の実施などによって景気を下支えすると見ており、また構造改革にも着手していることなどから中長期的な経済成長も期待できると考えます。インドやインドネシアでは、構造改革の進展が中長期的な経済成長に寄与すると考えます。

### ◎今後の運用方針

- ・国別では中国を中心とする組み入れを維持します。セクター別では、アジア新興国の消費市場拡大による恩恵が期待できる小売関連セクターに加え、不動産関連セクターなどを選好して運用する方針です。中国の不動産関連セクターについては、政府が都市化プロセスの一環として、経済構造的に重要なセクターと位置付け、政策対応が期待できると見えていますが、短期的には市況変動が大きくなるリスクもあることから、個別銘柄の動向に注視しながら銘柄分散に留意して運用を継続します。

## ○ 1万口当たりの費用明細

(2015年12月11日～2016年6月10日)

項 目	第42期～第47期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	81	0.872	(a)信託報酬＝作成期中の平均基準価額×信託報酬率× (作成期中の日数÷年間日数)
( 投 信 会 社 )	(49)	(0.527)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
( 販 売 会 社 )	(30)	(0.324)	交付運用報告書等各种書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
( 受 託 会 社 )	( 2 )	(0.022)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) そ の 他 費 用	2	0.020	(b)その他費用＝作成期中のその他費用÷作成期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	( 2 )	(0.017)	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( 監 査 費 用 )	( 0 )	(0.002)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
( そ の 他 )	( 0 )	(0.000)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	83	0.892	
作成期中の平均基準価額は、9,236円です。			

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○ 売買及び取引の状況

(2015年12月11日～2016年6月10日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第42期～第47期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
アジア・ハイイールド債券マザーファンド	千口 38,126	千円 67,000	千口 93,773	千円 171,440

○利害関係人との取引状況等

(2015年12月11日～2016年6月10日)

利害関係人との取引状況

<三菱UFJ アジア・ハイールド債券ファンド<為替ヘッジあり> (毎月決算型) >

区 分	第42期～第47期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替先物取引	百万円 6,079	百万円 2,547	% 41.9	百万円 6,006	百万円 2,560	% 42.6

<アジア・ハイールド債券マザーファンド>

区 分	第42期～第47期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 64	百万円 48	% 75.0	百万円 301	百万円 59	% 19.6

平均保有割合 53.5%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行です。

○組入資産の明細

(2016年6月10日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第41期末	第47期末	
	口 数	口 数	評 価 額
アジア・ハイールド債券マザーファンド	千口 507,674	千口 452,027	千円 819,525

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2016年6月10日現在)

項 目	第47期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
アジア・ハイイールド債券マザーファンド	819,525	90.3
コール・ローン等、その他	87,613	9.7
投資信託財産総額	907,138	100.0

(注) アジア・ハイイールド債券マザーファンドにおいて、作成期末における外貨建純資産(1,508,718千円)の投資信託財産総額(1,516,272千円)に対する比率は99.5%です。

(注) 外貨建資産は、作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、作成期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=107.10円			
------------------	--	--	--

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第42期末	第43期末	第44期末	第45期末	第46期末	第47期末
	2016年1月12日現在	2016年2月10日現在	2016年3月10日現在	2016年4月11日現在	2016年5月10日現在	2016年6月10日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	1,853,455,869	1,742,538,664	1,774,197,050	1,683,851,510	1,701,052,611	1,710,011,866
コール・ローン等	12,047,141	35,478,392	22,195,884	25,705,056	49,175,921	56,351,648
アジア・ハイイールド債券マザーファンド(評価額)	906,465,362	858,004,185	886,259,761	826,147,677	846,815,993	819,525,322
未収入金	934,943,348	849,056,030	865,741,405	831,998,777	805,060,697	834,134,896
未収利息	18	57	—	—	—	—
(B) 負債	902,379,278	844,105,127	871,297,244	818,737,542	827,782,142	847,694,002
未払金	894,672,000	835,281,400	863,276,423	811,793,260	819,984,144	839,349,888
未払収益分配金	6,170,521	6,010,490	5,963,130	5,605,143	5,572,057	5,451,462
未払解約金	—	1,546,060	812,163	—	1,010,274	1,591,521
未払信託報酬	1,532,781	1,263,900	1,242,307	1,335,677	1,212,393	1,297,674
未払利息	—	—	—	—	108	72
その他未払費用	3,976	3,277	3,221	3,462	3,166	3,385
(C) 純資産総額(A-B)	951,076,591	898,433,537	902,899,806	865,113,968	873,270,469	862,317,864
元本	1,028,420,275	1,001,748,405	993,855,135	934,190,615	928,676,226	908,577,055
次期繰越損益金	△ 77,343,684	△ 103,314,868	△ 90,955,329	△ 69,076,647	△ 55,405,757	△ 46,259,191
(D) 受益権総口数	1,028,420,275口	1,001,748,405口	993,855,135口	934,190,615口	928,676,226口	908,577,055口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,248円	8,969円	9,085円	9,261円	9,403円	9,491円

## ○損益の状況

項 目	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
	2015年12月11日～ 2016年1月12日	2016年1月13日～ 2016年2月10日	2016年2月11日～ 2016年3月10日	2016年3月11日～ 2016年4月11日	2016年4月12日～ 2016年5月10日	2016年5月11日～ 2016年6月10日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	834	1,020	247	—	△ 1,164	△ 2,063
受取利息	834	1,020	247	—	—	54
支払利息	—	—	—	—	△ 1,164	△ 2,117
(B) 有価証券売買損益	△ 13,075,790	△ 20,697,265	18,743,005	23,361,600	20,047,135	14,661,139
売買益	40,886,504	34,453,244	32,683,448	40,515,896	55,158,701	51,370,110
売買損	△ 53,962,294	△ 55,150,509	△ 13,940,443	△ 17,154,296	△ 35,111,566	△ 36,708,971
(C) 信託報酬等	△ 1,536,757	△ 1,267,177	△ 1,245,528	△ 1,339,139	△ 1,215,559	△ 1,301,037
(D) 当期損益金 (A+B+C)	△ 14,611,713	△ 21,963,422	17,497,724	22,022,461	18,830,412	13,358,039
(E) 前期繰越損益金	△ 98,456,923	△ 115,978,121	△ 142,514,372	△ 122,938,643	△ 105,582,220	△ 89,761,180
(F) 追加信託差損益金	41,895,473	40,637,165	40,024,449	37,444,678	36,918,108	35,595,412
(配当等相当額)	( 55,536,996)	( 54,182,274)	( 53,868,473)	( 50,709,371)	( 50,552,999)	( 49,748,368)
(売買損益相当額)	(△ 13,641,523)	(△ 13,545,109)	(△ 13,844,024)	(△ 13,264,693)	(△ 13,634,891)	(△ 14,152,956)
(G) 計 (D+E+F)	△ 71,173,163	△ 97,304,378	△ 84,992,199	△ 63,471,504	△ 49,833,700	△ 40,807,729
(H) 収益分配金	△ 6,170,521	△ 6,010,490	△ 5,963,130	△ 5,605,143	△ 5,572,057	△ 5,451,462
次期繰越損益金 (G+H)	△ 77,343,684	△ 103,314,868	△ 90,955,329	△ 69,076,647	△ 55,405,757	△ 46,259,191
追加信託差損益金	41,895,473	40,637,165	40,024,449	37,444,678	36,918,108	35,595,412
(配当等相当額)	( 55,545,830)	( 54,187,242)	( 53,875,278)	( 50,715,357)	( 50,562,060)	( 49,768,494)
(売買損益相当額)	(△ 13,650,357)	(△ 13,550,077)	(△ 13,850,829)	(△ 13,270,679)	(△ 13,643,952)	(△ 14,173,082)
分配準備積立金	54,445,837	51,331,888	50,209,139	47,030,134	45,896,029	43,995,222
繰越損益金	△ 173,684,994	△ 195,283,921	△ 181,188,917	△ 153,551,459	△ 138,219,894	△ 125,849,825

(注) (B) 有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

## &lt;注記事項&gt;

- ①作成期首 (前作成期末) 元本額 1,067,213,018円  
 作成期中追加設定元本額 15,769,674円  
 作成期中一部解約元本額 174,405,637円  
 また、1口当たり純資産額は、作成期末0.9491円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は46,259,191円です。

## ③分配金の計算過程

項 目	2015年12月11日～ 2016年1月12日	2016年1月13日～ 2016年2月10日	2016年2月11日～ 2016年3月10日	2016年3月11日～ 2016年4月11日	2016年4月12日～ 2016年5月10日	2016年5月11日～ 2016年6月10日
費用控除後の配当等収益額	5,288,745円	4,385,562円	5,353,035円	5,508,588円	4,852,576円	4,824,621円
費用控除後・繰越火損金補填後の有価証券売買等損益額	—円	—円	—円	—円	—円	—円
収益調整金額	55,545,830円	54,187,242円	53,875,278円	50,715,357円	50,562,060円	49,768,494円
分配準備積立金額	55,327,613円	52,956,816円	50,819,234円	47,126,689円	46,615,510円	44,622,063円
当ファンドの分配対象収益額	116,162,188円	111,529,620円	110,047,547円	103,350,634円	102,030,146円	99,215,178円
1万口当たり収益分配対象額	1,129円	1,113円	1,107円	1,106円	1,098円	1,091円
1万口当たり分配金額	60円	60円	60円	60円	60円	60円
収益分配金総額	6,170,521円	6,010,490円	5,963,130円	5,605,143円	5,572,057円	5,451,462円

④「アジア・ハイイールド債券マザーファンド」の信託財産の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するため要する費用として、信託財産に属する同親投資信託の信託財産の純資産総額に対し年10,000分の57.5以内の率を乗じて得た額を委託者報酬の中から支弁しております。

## ○分配金のお知らせ

	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期	第47期
1万口当たり分配金(税込み)	60円	60円	60円	60円	60円	60円

◆分配金は各決算日から起算して5営業日までにお支払いを開始しております。

◆分配金を再投資される方のお手取分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。

## ◆課税上の取り扱い

- ・分配金は、分配後の基準価額と個々の受益者の個別元本との差により、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金(特別分配金)」に分かれます。
- ・分配後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、全額が普通分配金となります。分配後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金(特別分配金)となり、残りの額が普通分配金となります。
- ・元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。
- ・個人受益者が支払いを受ける収益分配金のうち普通分配金については配当所得として課税され、原則として、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%)の税率で源泉徴収(申告不要)されます。確定申告を行い、総合課税・申告分離課税を選択することもできます。

※法人受益者に対する課税は異なります。

※課税上の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

※税法が改正された場合等には、上記内容が変更になることがあります。

※NISAおよびジュニアNISAをご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が一定期間非課税となります。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほかに当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ(<http://www.am.mufg.jp/>)をご覧ください。

## 【お知らせ】

2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315%(所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5%(法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。))の税率が適用されます。



# アジア・ハイールド債券マザーファンド

## 《第4期》決算日2016年6月10日

[計算期間：2015年6月11日～2016年6月10日]

「アジア・ハイールド債券マザーファンド」は、6月10日に第4期の決算を行いました。  
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第4期の運用状況をご報告申し上げます。

運用方針	日本を除くアジアの米ドル建てハイールド債券等を主要投資対象とし、値上がり益の獲得および利子収益の確保をめざします。また、ファンドの流動性等を勘案して、一部、米国債等に投資する場合があります。債券への投資にあたっては、マクロ要因を含む社債市場の分析、発行体のファンダメンタルズ分析等の信用リスク分析を行い、債券のバリュエーションを考慮して銘柄選定を行います。投資する債券は、原則として取得時においてCCC格相当以上の格付けを取得しているもの、もしくは運用委託先の格付基準によりCCC格相当以上の格付けを付与されているものに限り、デュレーション調整等のため、債券先物取引等を利用する場合があります。債券等の運用にあたっては、モルガン・スタンレー・インベストメント・マネジメント・インクに運用指図に関する権限を委託します。組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。
主要運用対象	日本を除くアジアの米ドル建てハイールド債券等を主要投資対象とします。
主な組入制限	外貨建資産への投資割合に制限を設けません。

### ○設定以来の運用実績

決算期	基準価額		(参考指数) B of A メリルリンチ アジアン ダラー ハイールド コーポレート インデックス (円換算ベース)		新株予約権付社債 (転換社債) 組入比率	債券 組入比率	債券 先物比率	純資産 総額
	期騰落率	中率	期騰落率	中率				
(設定日)	円	%	%	%	%	%	%	百万円
2012年7月12日	10,000	—	26,201.80	—	—	—	—	2,010
1期(2013年6月10日)	14,004	40.0	36,109.49	37.8	4.9	91.5	—	13,524
2期(2014年6月10日)	15,944	13.9	40,402.54	11.9	4.7	89.8	—	4,431
3期(2015年6月10日)	19,869	24.6	51,210.81	26.8	—	95.1	—	2,463
4期(2016年6月10日)	18,130	△ 8.8	47,932.93	△ 6.4	—	95.2	—	1,516

(注) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注) 基準価額動向の理解に資するため、参考指数を掲載しておりますが、当ファンドのベンチマークではありません。

(注) 参考指数は、BofAメリルリンチ アジアン ダラー ハイールド コーポレート インデックス (円換算ベース) です。

BofAメリルリンチ アジアン ダラー ハイールド コーポレート インデックスとは、BofAメリルリンチ社が算出するアジアのハイールド債券の値動きを表す指数です。BofAメリルリンチ アジアン ダラー ハイールド コーポレート インデックス (円換算ベース) は、BofAメリルリンチ アジアン ダラー ハイールド コーポレート インデックスをもとに、委託会社が計算したものです。

(注) 外国の指数は、基準価額への反映に合わせて前営業日の値を使用しております。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

(注) 設定日の純資産総額は、設定元本を表示しております。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		( 参 考 指 数 ) B o f A メリルリンチ アジアン ダラー ハイイールド コーポレート インデックス (円換算ベース)		新株予約権付社債 (転換社債) 組 入 比 率	債 券 率 組 入 比 率	債 先 物 比 率	券 率
	円	騰 落 率 %	騰 落 率 %	騰 落 率 %				
(期 首) 2015年6月10日	19,869	—	51,210.81	—	—	95.1	—	—
6月末	19,657	△ 1.1	50,764.59	△0.9	—	93.5	—	—
7月末	19,833	△ 0.2	51,433.68	0.4	—	95.6	—	—
8月末	18,878	△ 5.0	49,008.34	△4.3	—	93.7	—	—
9月末	18,361	△ 7.6	47,827.81	△6.6	—	96.1	—	—
10月末	19,550	△ 1.6	50,573.80	△1.2	—	93.4	—	—
11月末	19,755	△ 0.6	51,201.57	△0.0	—	95.6	—	—
12月末	18,942	△ 4.7	49,747.04	△2.9	—	93.9	—	—
2016年1月末	18,492	△ 6.9	49,033.57	△4.3	—	93.3	—	—
2月末	17,565	△11.6	46,809.39	△8.6	—	94.7	—	—
3月末	18,016	△ 9.3	48,000.89	△6.3	—	92.8	—	—
4月末	18,144	△ 8.7	47,888.97	△6.5	—	95.2	—	—
5月末	18,632	△ 6.2	49,229.29	△3.9	—	96.3	—	—
(期 末) 2016年6月10日	18,130	△ 8.8	47,932.93	△6.4	—	95.2	—	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「債券先物比率」は買建比率－売建比率。

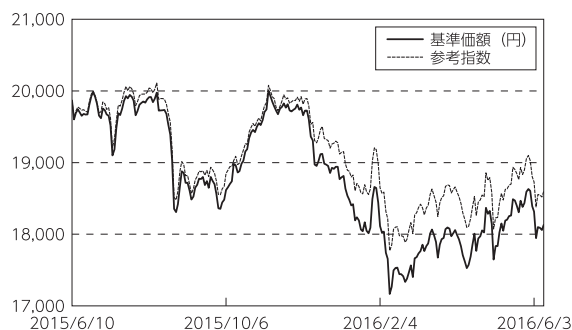
## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ8.8%の下落となりました。

## 基準価額の推移



(注) 参考指数は期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●投資環境について

## ◎債券市況

- ・期首から2016年2月中旬にかけては、中国経済に対する不透明感が高まったこと、商品市況が下落したことなどを背景にリスク回避の動きが強まり、アジア・ハイイールド債券のスプレッド（国債金利に対する上乗せ金利）が拡大し、アジア・ハイイールド債券市況はもみ合う展開となりながらも軟調に推移（利回りは上昇）しました。
- ・2月中旬から期末にかけては、米国の利上げペースが緩やかなものになるとの見方が広がったこと、商品市況が上昇したことなどを背景にリスク回避の動きが後退し、アジア・ハイイールド債券のスプレッドが縮小し、アジア・ハイイールド債券市況は上昇しました。
- ・期を通じてみると、アジア・ハイイールド債券市況は上昇しました。

## ◎為替市況

- ・期首から2015年10月中旬にかけては中国の景気減速懸念の高まりなどを背景に投資家のリスク回避的な動きが強まり、米ドルは対円で下落しました。その後、12月中旬から2016年1月中旬にかけては中国経済に対する不透明感が高まったこと、原油価格が下落したことなどを背景にリスク回避の動きが強まり、さらに円高・米ドル安が進行しました。1月中旬から期末にかけては米国の利上げペースが緩やかなものになるとの見方が広がったことなどが材料視され、一段と円高・米ドル安の進行が継続しました。
- ・その結果、期を通じて見ると、米ドルは対円で下落しました。

## ●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・国別では、ファンダメンタルズと比べて割安感があると考えられる中国の組入比率を高めとした一方、利回りの観点から魅力度の劣るフィリピンや韓国は非保有としました。格付配分では、B格相当の銘柄への投資を多めとしました。セク

ター別では、不動産関連セクターなどの組入比率を高めに維持するとともに、アジア新興国の消費市場拡大による恩恵が期待できる小売関連セクターなどへの配分を市場平均対比多めとする一方、利回り水準が低く金利感応度の高い公益セクターなどへの配分を市場平均対比少なめとしました。

- ・前記の運用を行った結果、保有していた不動産関連銘柄が概ね上昇したことなどが基準価額にプラスに寄与したものの、円高・米ドル安が進行したことなどがマイナスに影響し、基準価額は下落しました。

## ◎今後の運用方針

## ◎運用環境の見通し

- ・米国では世界経済の動向を確認しながら緩やかなペースで追加利上げが実施される可能性が高いと予想していること、日本やユーロ圏などの他の先進国では緩和的な金融政策が維持されると見ていることなどから、アジア・ハイイールド債券市況には相対的に高い利回りを求める投資家からの資金流入が期待できると見えています。
- ・アジア各国では、原油価格が中長期的な観点から見て低水準で推移していることなどを背景にインフレ懸念が後退していることから、景気が減速しても緩和的な金融政策による景気下支えが期待できると考えます。また、中長期的には中間層および富裕層の拡大などを通じて相対的に高い経済成長を継続できると考えます。中国では、経済成長ペースがやや鈍化すると想定されるものの、政府が景気刺激策の実施などによって景気を下支えすると見ており、また構造改革にも着手していることなどから中長期的な経済成長も期待できると考えます。インドやインドネシアでは、構造改革の進展が中長期的な経済成長に寄与すると考えます。

## ◎今後の運用方針

- ・国別では中国を中心とする組み入れを維持します。セクター別では、アジア新興国の消費市場

拡大による恩恵が期待できる小売関連セクターに加え、不動産関連セクターなどを選好して運用する方針です。中国の不動産関連セクターについては、政府が都市化プロセスの一環として、経済構造的に重要なセクターと位置付け、政策対応が期待できると見ていますが、短期的には市況変動が大きくなるリスクもあることから、個別銘柄の動向に注視しながら銘柄分散に留意して運用を継続します。

## ○1万口当たりの費用明細

(2015年6月11日～2016年6月10日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) そ の 他 費 用	円	%	(a)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
( 保 管 費 用 )	6	0.032	有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用
( そ の 他 )	(6)	(0.031)	信託事務の処理等に要するその他諸費用
合 計	(0)	(0.001)	
期中の平均基準価額は、18,818円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2015年6月11日～2016年6月10日)

## 公社債

			買 付 額	売 付 額
外 国	アメリカ	社債券	千アメリカドル 2,796	千アメリカドル 6,564 (1,122)

(注) 金額は受渡代金。(経過利子分は含まれておりません。)

(注) ( )内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注) 社債券には新株予約権付社債(転換社債)は含まれておりません。

## ○利害関係人との取引状況等

(2015年6月11日～2016年6月10日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
為替直物取引	百万円 64	百万円 48	% 75.0	百万円 833	百万円 102	% 12.2

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○組入資産の明細

(2016年6月10日現在)

## 外国公社債

## (A)外国(外貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期 末							
	額面金額	評 価 額		組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
		外貨建金額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
	千アメリカドル	千アメリカドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	13,511	13,477	1,443,387	95.2	93.6	16.9	62.3	16.0
合 計	13,511	13,477	1,443,387	95.2	93.6	16.9	62.3	16.0

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

## (B)外国(外貨建)公社債 銘柄別開示

銘柄	銘柄	利率	当期末			償還年月日
			額面金額	評価額		
				外貨建金額	邦貨換算金額	
アメリカ		%	千アメリカドル	千アメリカドル	千円	
	普通社債券					
	10 GLOBAL A&T ELE 190201	10.0	500	357	38,288	2019/2/1
	10.25 FUTURE LAND 190721	10.25	200	219	23,545	2019/7/21
	10.75 FANTASIA HL 200122	10.75	400	425	45,573	2020/1/22
	11.25 LOGAN PROPE 190604	11.25	300	332	35,621	2019/6/4
	11.625 VINGROUP 180507	11.625	250	270	28,983	2018/5/7
	4.625 TATA MOTORS 200430	4.625	250	261	28,000	2020/4/30
	4.625 TBG GLOBAL 180403	4.625	200	204	21,926	2018/4/3
	5 CHINA OIL AND G 200507	5.0	250	248	26,587	2020/5/7
	5.25 TBG GLOBAL P 220210	5.25	250	250	26,832	2022/2/10
	5.325 BANK OF CEY 180416	5.325	400	400	42,840	2018/4/16
	5.95 ABJA INVESTM 240731	5.95	400	384	41,126	2024/7/31
	6.125 CAR INC 200204	6.125	250	259	27,843	2020/2/4
	6.25 SOLUSI TUNAS 200224	6.25	400	405	43,417	2020/2/24
	6.5 TEXHONG TEXT 190118	6.5	300	313	33,614	2019/1/18
	6.5 WEST CHINA 190911	6.5	200	210	22,588	2019/9/11
	6.75 FRANSHION DE 210415	6.75	200	229	24,541	2021/4/15
	6.75 MPM GLOBAL 190919	6.75	400	400	42,898	2019/9/19
	6.875 MIE HOLDIN 180206	6.875	300	238	25,581	2018/2/6
	6.875 SPARKLE ASS 200130	6.875	300	314	33,696	2020/1/30
	6.95 ALAM SYNERGY 200327	6.95	325	299	32,109	2020/3/27
	6.95 LISTRINDO 190221	6.95	200	208	22,319	2019/2/21
	7 THETA CAPITAL 220411	7.0	400	408	43,792	2022/4/11
	7.125 PAKUWON PRI 190702	7.125	200	211	22,674	2019/7/2
	7.25 361 DEGREES 210603	7.25	200	203	21,845	2021/6/3
	7.5 COUNTRY GAR 230110	7.5	400	426	45,685	2023/1/10
	7.5 JABABEKA INTE 190924	7.5	480	495	53,110	2019/9/24
	7.625 CHINA HONGQ 170626	7.625	350	359	38,493	2017/6/26
	8 BCP SINGAPORE 210415	8.0	250	206	22,089	2021/4/15
	8 GREENKO DUTCH B 190801	8.0	275	298	31,919	2019/8/1
	8 VN JSC BK FOR I 170517	8.0	200	207	22,196	2017/5/17
	8.125 SHIMAO PPTY 210122	8.125	200	220	23,650	2021/1/22
	8.125 YINGDE GASE 180422	8.125	350	271	29,050	2018/4/22
	8.25 VEDANTA RESO 210607	8.25	600	495	53,014	2021/6/7
	8.5 STATS CHIPPAC 201124	8.5	250	256	27,511	2020/11/24
	8.5 STUDIO CITY F 201201	8.5	250	250	26,808	2020/12/1
	8.625 KWG PROP 200205	8.625	293	313	33,539	2020/2/5
	8.75 CAIFU HOLDIN 200124	8.75	200	212	22,733	2020/1/24
	8.75 YUZHOU PROPE 181004	8.75	200	212	22,708	2018/10/4
	8.875 CIFI HOLDIN 190127	8.875	400	430	46,158	2019/1/27
	9.375 SUNAC CHINA 180405	9.375	300	315	33,768	2018/4/5
	9.75 PACIFIC EMER 180725	9.75	500	521	55,825	2018/7/25
	STEP ICICI BANK 220430	6.375	400	408	43,753	2022/4/30
	VAR AGILE PROPERT 490129	8.25	250	235	25,175	2049/1/29

銘	柄	当 期 末				
		利 率	額面金額	評 価 額		償還年月日
				外貨建金額	邦貨換算金額	
アメリカ		%	千アメリカドル	千アメリカドル	千円	
	普通社債券 VAR BANK OF EAS 491229	5.5	288	279	29,946	2049/12/29
合	計				1,443,387	

(注) 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

## ○投資信託財産の構成

(2016年6月10日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 1,443,387	% 95.2
コール・ローン等、その他	72,885	4.8
投資信託財産総額	1,516,272	100.0

(注) 期末における外貨建純資産 (1,508,718千円) の投資信託財産総額 (1,516,272千円) に対する比率は99.5%です。

(注) 外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、期末における邦貨換算レートは以下の通りです。

1 アメリカドル=107.10円		
------------------	--	--



## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2016年6月10日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,516,272,811
コール・ローン等	45,589,559
公社債(評価額)	1,443,387,799
未収利息	26,641,280
前払費用	654,173
(B) 負債	18
未払利息	9
その他未払費用	9
(C) 純資産総額(A-B)	1,516,272,793
元本	836,328,253
次期繰越損益金	679,944,540
(D) 受益権総口数	836,328,253口
1万口当たり基準価額(C/D)	18,130円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 1,239,981,915円  
 期中追加設定元本額 47,299,272円  
 期中一部解約元本額 450,952,934円  
 また、1口当たり純資産額は、期末1.8130円です。

## ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ アジア・ハイイールド債券ファンド<為替ヘッジあり>(毎月決算型)	452,027,205円
三菱UFJ アジア・ハイイールド債券ファンド<為替ヘッジなし>(毎月決算型)	384,301,048円
合計	836,328,253円

## ○損益の状況 (2015年6月11日~2016年6月10日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	138,201,119
受取利息	136,854,675
その他収益金	1,347,281
支払利息	△ 837
(B) 有価証券売買損益	△ 311,355,798
売買益	61,463,142
売買損	△ 372,818,940
(C) 保管費用等	△ 551,170
(D) 当期損益金(A+B+C)	△ 173,705,849
(E) 前期繰越損益金	1,223,746,727
(F) 追加信託差損益金	35,700,728
(G) 解約差損益金	△ 405,797,066
(H) 計(D+E+F+G)	679,944,540
次期繰越損益金(H)	679,944,540

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

## [お知らせ]

2015年7月1日に国際投信投資顧問株式会社と合併し、商号を三菱UFJ国際投信株式会社へ変更し、信託約款に所要の変更を行いました。(2015年7月1日)